

B-23 そ水性合成繊維織物の油性汚れ洗浄について

大阪女子学園短大 ○小谷 昭子
麓 泉

1. そ水性合成繊維には、油性汚れが固溶体的に繊維に溶けこむといわれ、通常のランドリーでは洗浄効果がきわめて悪い。われわれは、そのような場合においても良好な洗浄効果をあげ得る界面活性剤を選び出すための実験をおこなった。

2. ポリエステル、アクリル、ポリプロピレン、ナイロン、ビニロン等の織物を用い、人工汚染には、岩崎らの方法^{*}に準じ、オイルレッド (Sudan III) を用いた。界面活性剤は各種市販洗剤の他、HLB値の9~16の範囲にわたるポリオキシエチレンラウリルエーテル、オレイルエーテル、ノニルフェノールエーテル等の非イオン活性剤を用いた。洗浄はランドリーテスターにて40°C、30分間行ない、洗浄前後の汚染布の視感反射率から洗浄効率を求めた。

3. 非イオン活性剤が最も効果的であった。マルセル石鹼がそれにつき、現在家庭で多用されているアニオン性合成洗剤は最も効率が悪い。POEタイプの非イオン活性剤は、いずれもHLB値12~13のものが効果的であったが、とくに、ノニルフェノールエーテルおよびラウリルエーテルを用いた場合は、ポリエステル繊維織物の汚染布について80%に達する洗浄効率を得た。

^{*} 岩崎、清水ら；繊維製品消費科学，4，22（1963）